

室原会だより

Vol.119

# ふれあい

新春号

令和7年

(題字 室原亥十二)

## 医療法人室原会 室原亥十二会長 追悼号

室原亥十二の航跡

「ありがとう」を皆様へ／長男よりの御礼

室原内科・小児科 院長ご挨拶

医療法人室原会忘年会

ふれあい クリスマス・お正月のお品書き

認定看護師インタビュー／ハタチのお祝い

ドクター古庄のサイクリング紀行

城野憲二 Dr. の「徒然の記」

うりぼう／グループホームきくなんだより

...and more



菊南病院  
ホームページ



菊南病院  
youtubeチャンネル

室原内科・小児科

〒862-0949  
熊本市中央区国府1丁目11番9号  
Tel 096-364-3080 Fax 096-366-4668

菊南病院

〒861-5517  
熊本市北区鶴羽田3丁目1番53号  
Tel 096-344-1711 Fax 096-344-1726

水前寺高齢者複合施設

〒862-0949  
熊本市中央区国府1丁目3番15号  
Tel 096-364-1210 Fax 096-364-1221

グループホームきくなん

〒861-5517  
熊本市北区鶴羽田3丁目11番15号  
Tel 096-345-2260 Fax 096-345-2261



# 「ありがとう」を皆さまへ

## 医療法人室原会 会長 室原亥十二の航跡

令和六年十二月十八日、ひと世紀を剛毅に渡り切り、亥十二先生が旅立たれました。  
先生は折に触れて、家族に、先輩や後輩に、患者様に、職員一人一人に「ありがたいね」「感謝しています」「皆さんのお陰です」と感謝を言

葉にされてきました。これまでの人生や、多くの尊い出会いがあつて発せられていたのだと思います。季刊誌に『ふれあい』と名づけられた理由が伝わります。情熱をもって生きた人生の断片から、改めて「ありがとう」が皆さまに、先生に伝わりますよう、「ふれあい」誌面より願います。

### 立志編 生い立ちから開業まで

### ボート編 青春と情熱

一九二二 (大正十二年)	〇歳	阿蘇郡小国町大字黒淵字志屋に代々、山林と田畑で生計を立てる室原家の四男として生まれる
一九二九 (昭和四年)	六歳	蓬萊尋常小学校分校 志屋小学校に入学。津江川や山でよく遊ぶ、自然児そのものだった。
一九三六 (昭和十一年)	三歳	大分県立日田中学校に進学。下宿生活を送る。
一九四一 (昭和六年)	一八歳	第五高等学校理科に入学。自治寮「習学寮」に入寮。ボート部(緑水会)に入る。
一九四三 (昭和八年九月)	二十歳	同校卒業(戦争のため半年の繰り上げ)
一九四三 (昭和八年十月)	二十歳	東京大学石油工学部に入学。(海軍の依託学生)
一九四六 (昭和二十年)	二三歳	同校卒業。戦後の混乱期、帰郷。
一九四七 (昭和二年)	二四歳	日田中学校にて1年間教師を務める。
一九四八 (昭和三年四月)	二五歳	熊大医学部に入学。
一九五二 (昭和二十七年)	二九歳	卒業。同年暮れに結婚。
一九五三 (昭和二八年)	三十歳	熊大医学部一内科に入局。
一九五八 (昭和三十三年)	三十五歳	医局を出て開業する。



昭和41年頃の室原病院



第五高等学校創立120周年記念式典でのテーブルカット  
右から5人目が亥十二先生(平成19年10月10日)



学帽に下駄、着物姿の亥十二先生(左)



昭和18年頃 江津湖レガッタ  
懸命にボートを漕ぐ亥十二先生



ボートに青春を燃やした亥十二先生(右)



昭和35年の熊本国体でボート競技が行われた荒瀬ダムコース (写真集「流れの記憶」から)

一九四一 (昭和六年)	一八歳	第五高等学校 端艇部(緑水会)に入部。端艇部は明治二八年に創設され、文豪・夏目漱石も一時部長を務めた。
一九四五 (昭和四十年)	四二歳	普及は江津湖にて猛練習、合宿や遠く島原への遠漕など部員時代は精力的に活動した。
一九四九 (昭和四四年)	四六歳	緑水会(五高端艇部同窓会)が主催する「緑水杯レガッタ」を通じてボート競技の素晴らしさを継承する。
一九七六 (昭和五一年)	五三歳	熊本県漕艇協会理事長
一九八〇 (昭和五五年)	五七歳	熊本県漕艇協会副会長
一九九一 (平成十一年)	七六歳	熊本県で開催された「第五十四回くまもと未来国体」でボート競技の開会のあいさつを務める。
二〇〇七 (平成一九年)	八四歳	生涯スポーツ功労賞 受章
二〇〇八 (平成二〇年)	八五歳	長年、ボートの普及と選手育成に取り組んできた功績が認められ、春の叙勲「旭日双光章」を受章

熊本県漕艇協会会長に就任  
※平成一〇年熊本県ボート協会へ名称変更  
二〇一〇(平成二二年)まで三〇年務める。



平成20年5月12日春の叙勲「旭日双光章」受章式にて  
鈴木夫人と



平成11年のくまもと未来国体のボート競技に  
御来臨された秋篠宮紀子妃を先導する



# 町医者編

「近所の人たち」のための医療・福祉・介護

一九五八 (昭和三十三年)	三十五歳	熊本市国府で開業していた診療所を引き継ぎ「室原医院」開設。民家を改造した診療所で当時死因のトップだった結核患者の診療に追われる。
一九六四 (昭和三九年)	四歳	医療法人室原会設立(理事長 室原亥十二)
一九六六 (昭和四一年)	四三歳	現在地に室原病院を新築・移転。鉄筋コンクリート五階建て、六〇床(内結核病棟二〇床)。診療科目は内科・小児科・呼吸器科。遠近問わず往診へも奔走。
一九六九 (昭和四四年)	四六歳	医療法人第二室原会設立
一九七二 (昭和四七年)	四九歳	温泉付きのリハビリテーションシオン病院として 医療法人第二室原会 菊南病院開設(六四床、診療科目は理学療法科・循環器科)リハビリ専門の病院としては県内二番目。
一九九二 (平成四年)	六九歳	室原病院 結核病棟廃止(一般病床四〇床) 機関紙「ふれあい広場」創刊※以後「ふれあい」は現在まで刊行。
二〇〇一 (平成一三年)	七八歳	菊南病院リニューアルオープン(二七八床) 室原病院を閉院し、室原内科・小児科を閉院
二〇〇二 (平成一四年)	七九歳	室原亥十二理事長・鈴子理事、金婚夫婦表彰
二〇〇九 (平成二二年)	八六歳	水前寺高齢者複合施設を開設
二〇一三 (平成二五年)	九〇歳	グループホームきくくを開設 室原亥十二会長 卒寿。
二〇一四 (平成二六年)	九歳	医療法人室原会 理事長交代 室原亥十二会長就任
二〇二三 (令和五年)	一〇〇歳	室原亥十二会長 百寿。 百歳も診察室に通い続けた。



菊南病院シンボルマーク

基本的な形は、菊南病院のアルファベットの頭文字「K」をモチーフにしています。そして、このマークには三つの主義・主張が表現されています。

- 第一、「患者主体主義」。右側の患者様を左側の医療スタッフが支えています。
- 第二、「地域密着主義」。マークの右側が地域、左側が菊南病院を表しています。
- 第三、「病室だけでなく、病室を持った人を診る診療」。マークの肩と胸がクロスしているのは、患者様と医療スタッフの心の交流を表現しています。

昔から変わらない思い



定位置



金婚夫婦表彰

## 妻 室原鈴子

百歳まで現役と頑張っていた主人。その後、三、四回入退院をくり返し、令和六年十二月十八日に人生の幕を閉じた。私が心穏やかに成れたのは、微かにほほえみすら浮かべる様に、やさしい顔で旅立ったこと。早朝六時頃、一歳から七歳までの四人のひい孫や孫たちに手を握られ、皆に囲まれての最期のお別れはすばらしい光景だった。それに、菊南病院の職員皆さまが整列し、円陣を作って、主人の亡骸を見送るサプライズの葬の儀は、心にしみた。人が生きていく上で一番大切なことは「努力!」「チャレンジ精神」をもち何事も諦めずポジティブに生きる、をモットーにたくましく強い心で生き切った主人の姿は私の理想だった。最後は目も緑内障で殆ど視界不自由、耳も聞こえず、読書中毒の夢も絶たれ辛い日々だったと思うと心が痛む。

自分の両親・兄弟を心から愛し、私の両親や弟妹も精一杯の愛情をそいでくれた。また、四〇年ボート競技振興のため貢献し、叙勲の栄に浴することも出来た。何事にもエネルギーをつぎ込み『永遠の活火山』として生き抜いた主人の長き歩みに敬意と感謝を捧げます。「お父さん!」貴方は私の唯一のファン!そして私のすべての師匠でした。この赤い糸に心より感謝しやがて九六歳を迎える私。命ある限り主人の志を宿して、しなやかに、たくましく生きていきます。

これからもその背中を道しるべとして

医療法人室原会 菊南病院  
院長 室原良治

父は大正十二年に山林業をなりわいとする室原家に生まれ、豊かな自然の中、親から名木の育て方の手ほどきを受けながら育ちました。

バンカラで知られる旧制第五高等学校ではボート部でならし、東京帝国大学石油学科を卒業しましたが、戦後のどきどきの中、一念発起し熊本大学医学部に学びなおし医者の道へと舵を切りました。三十代で開院、その後規模を拡大し地域医療に邁進した父。

私たちが覚えているのは父が患者さんに向き合う「診る」姿勢です。深夜や休日レストランにしようがどんな呼び出しにも速やかに応じ、話を聞き聴診器をあてていた誠実な父の姿を忘れることはありません。その姿勢はDNAとなつて孫や次の世代にも受け継がれていくことでしょう。

父は百歳まで現役の医師として診療にあたり、医療以外にも学生時代から親しんだボート競技振興のために貢献し、叙勲の栄に浴することもできました。格別に喜んでくれた父の笑顔も胸に刻まれています。

何事にもひた向きにエネルギーをつぎ込み「永遠の活火山」として生きぬいた父の長き歩みに、改めて敬意と感謝を捧げます。



# 皆様への長男よりの御礼

長男 室原 一仁

まず此度の故室原亥十二の死去に際し皆様から御寄せ頂きました御弔意に對しまして改めて厚く御礼申し上げます。葬儀の折、日程過密の為、葬儀社より我々家族の体調に御配慮頂き、挨拶を短縮させて頂きました。そこで、

今回誌面を御借りして、故人の生い立ち、経歴に簡単に触れた後、性格や人間性を、家族から見た長寿の秘訣と  
いった視点でほんの僅かでも、皆様の今後の御長寿の一助になればという思いで述べさせて頂きます。

生い立ち…阿蘇小国地方で、大正12年山林地主の家に生まれています。故人の父の代で山林をかなり拡大していますので、知らず知らずの内に後々の病院経営に於ける、事業への興味・決断力等に少なからず影響を受けたのではないかと感じています。

経歴…旧制日田中学、旧制第五高等学校、旧制東京帝大工学部を卒業し、戦後の混乱期と重なった事もあり熊本大学医学部に入学卒業し、医師となり、30代半ばで開業し、以後開業医の道を歩んでいます。

家族から見た長寿に関連したと思われる性格・人間性…故人の性格・人間性に与えた影響という点では、旧制五高に依る処が、大きかったのではと感じています。当時いわゆるナンバーズクール（一高、三高、五高等）に合格するとい

う事は、進学者そのものも少なく、割と既定コースの様に東京帝大等へ進学できたと思つています。即ち、五高入学が人生の一大岐路であり、入学前にその意識で最大限の努力をしたであろう事は、想像に難くありません。しかし、入学後、同級には、数学の教科書は開かなくてもいい程出来る者もいたという事ですし、又、後々、別の同級生からは東大医学部の教授も輩出しています。その様な状況下、自らの勉学、努力への自負と、上には上がいるという集団の狭間で、自分はもう現実に出来る限りの事を柔軟にやっていくしかない。即ち、現実主義と柔軟性に自らの途を見出すという心境に帰結したのではと思つています。

その様な感覚、即ち現実主義と柔軟性がストレスと正対して、思い悩むというより、又は弱

気になってストレスから逃げるといふより、ストレスをうまくかわす、そらす方向に向かったのではないかと感じています。巷間使われる表現ですが、雑に扱う「いいかげん」ではなく、頃の加減が丁度いい「善い加減」の中に考えや人間性が収斂し、現実主義と柔軟性が故人の生き方の軸となり、ストレスを感じにくい、一つの大きな長寿の秘訣となっていたのではと感じています。

故人も半世紀を遥かに越える医療人生活で、世情や医療界の幾多の変遷を見てきている訳ですが、先般、医療従事者から「一昔前と比較して厳しさを増している今の医療界で、医療従事者はいかにしてモチベーションを保っているか、又、保つていくべきか」という疑問を呈された事がありました。一般的には、社会的使命・責任、



回復後の笑顔や御礼の言葉等がよく言われま  
す。非常に大事な事だと思えます。しかし、職  
を離れる迄、命に関わるという緊張感を要求さ  
れる現場です。やはり、その緊張感を越え続け  
る、各人の胸に刺さる程の教訓やモットーの様  
なものを持たないと、耐える事は難しいのでは  
と感じています。

ここで、その心理についての説を述べる事は  
私には、難しいと思えるので、患者目線で、こ  
ういう医療人と接したいというメディアで見聞  
させた2例を挙げさせて頂きます。

例1 手技に賞賛が集まり出した脳神経外科  
医が、手先を使う職人の脳腫瘍を手術した例で  
す。日常生活可能という一応の成功は見ました  
が、元の様な細かい手先の動きが出来なくなり、  
その職人は飛び降りて自死しました。その医師  
は、悩んだ末、上司に医師を辞める事を申し出  
ましたが、上司の「今回の事を戒めとし、今後  
多くの人を救う事で、償いを」という言葉で翻  
意し、術前の説明時「患者さんが、命がけで手  
術に臨む以上私も、自分の大事な家族を手術す  
るつもりで、命がけで臨みます」という言葉を  
自分への戒めを込めて発する様にしているとの  
事でした。そういう脳神経外科医の例です。

例2 小児外科の女性医師の例です。どんな  
に多忙でも、担当小児患者からの手紙には丁寧  
に返事を書く。又、どうしても救えなかった小  
児の手術後、深夜に外に出た時満天の星空で、  
思わず手を合わせた。その後星空を見る度に手

を合わせるようになった。あくまで、自分の印  
象ですが、元々持っていた心根の優しさと、後  
の修練等で鍛えられたであろう、難手術に立ち  
向かう鋼の様な強い心という、兼ね備えるのが  
難しいと思われる異質のものを、両方感じられ  
る、そういう小児外科医の例です。

現代は、コンプライアンス・ハラスメント等  
の問題が顕在化してきています。又、ネット社  
会の中では利用者やプラットフォーマーが、法・  
政治・経済的利益・倫理、等々様々な要素が複  
雑に絡み合う中で、混沌とした様相を呈して来  
ていると感じています。以前ある政治家が「落  
ち着きがない社会」という言葉を使っていたの  
を思い出します。

比較して故人の活発な活動期は、理系の為、  
学徒動員での軍への招集を免れた、又、高度経  
済成長、医学・医療業界の目覚ましい発展、病  
院の規制の自由度が今より高かった事等々時流  
に恵まれた点は確かにあったと思います。半面、  
30代半ばで開業し、一国一城の主となつてから  
は、意見をする者も減つて、世の常とはいえ、  
独善性が見受けられ、御迷惑をおかけした点も  
あったのではと思つていきます。

今となつては、生前、意見というより、患者  
目線や、私のモットーの様なものを、日常会話  
の中で、それとなく話しておけばよかつたと思  
う事もあります。患者目線については、少しだ  
け話した記憶がありますが、私のモットーの様  
なものは話さずじまいでした。僭越ですが、も

うこういう機会もあまり無いと思えますので、  
述べさせて頂きます。勿論青臭い教条的なもの  
でなく、漠とした、出来るだけこういう風にし  
たいという指針の様なものです。

① 物事をキチンと考える  
② 世の中を見る眼を持つ

③ 人の気持ち・立場を考えてみる

④ 生きていく上で（人や世の中に対して又生き  
方に於いて）「バランス感覚」の様なもの考  
える

というものです。故人がこれを聞いて、「分かり  
切った事」と言つたか、「成程 大事な事かもし  
れない」と言つたか、今となつては解かりませ  
ん。葬儀の折、後ろのスクリーンに故人の最晩年  
のインタビュが流れました。最後の方は、例  
えれば、まるで解脱でもしたかの様に「全ては  
皆さんの御かげ」という言葉を述べていました。  
ここに、その言葉を借りて、改めまして、故人  
に対して生前、皆様から頂きました御厚情に、  
厚く深く感謝を申し上げて、御礼の言葉とさせ  
て頂きます。





# ご挨拶

室原内科・小児科 院長 梅田 照久



明けましておめでとうございます。本年も何卒  
よろしく願い申し上げます。

医療法人室原会会長 室原亥十二先生は昨年  
12月18日に101才の天寿を全うされ亡くなりました。

先生のご逝去に伴い室原内科小児科および水前寺高齢者複合施設は一時的に管理者不在となりましたが、法人事務からの指示で当面私が代行させて頂きました。故室原亥十二先生の後継者は、二世代目 室原良治先生（現菊南病院院長／法人理事長）、三世代目予定 室原誉伶先生（現甕島診療所所長／法人理事）がおられますが、今回の諸般の事情から再度私に続けて代行するよう辞令が出されましたので、正月明けから院長として勤務致しております。

私は内科医として50年余、熊大病院・大牟田天領病院・室原会菊南病院などに勤務致し、高血圧・内分泌領域を中心に学んで参りました。室原亥十二先生との関りは更に古く、私が熊大医学部学生時代のボート部コンパでお目にかかったのが最初でしたが、その後の人生においても大先輩として色々ご指導を頂き、大変お世話になりました。先生は熊本県漕艇協会会長としても活躍され、その功績にて叙勲されておられます。

今回私は医療施設管理責任者として重責を負うことになりましたが、今後も体力・気力の続く限り頑張っけてゆきたいと思っておりますので、何卒よろしく願い申し上げます。

令和7年1月

## 2024年(令和6年度) 医療法人室原会忘年会

12月20日(金)、ユウベルホテルのホールにて忘年会が開催されました。コロナ感染症の流行で三密、ソーシャルディスタンスを保つために中止していましたが、実に4年ぶりの開催となりました。

職員が一堂に会して一年(またはコロナ禍を含めたこの数年)の労を労い、新たな一年に向けて同じ方向を向けるいい機会になったと思います。

### 2024～2025年 冬 ふれあい お品書き



#### クリスマス

- ・チキンライス
- ・星のハンバーグ
- ・卵サラダ
- ・コーンスープ
- ・ホワイトチョコムース



#### お正月

- ・お赤飯 ・お雑煮
- ・鶏肉の野菜巻き
- ・祝えび ・炊き合わせ
- ・黒豆・かずのこ
- ・寿かまぼこ ・なます
- ・だし巻き卵 ・栗きんとん
- ・紅白ゼリー ・フルーツ(柿)





# うりぼう



～ 施設の楽しい行事を紹介します。～

水前寺高齢者複合施設  
グループホーム 鈴の音  
水前寺有料老人ホーム

あけましておめでとうございます。  
本年もよろしくお願いたします。

元日にはおせちとお屠蘇でお祝いをしました。お正月ならではの書初めや福笑い、また、お天気にも恵まれ凧揚げも行い、スタッフが走る姿を笑顔で見守られていました。



## グループホーム きくなん だより

コスモス見学



紅葉狩り



メリークリスマス



ご家族も参加で誕生会



お正月：おせち料理



初詣へ（健康第一をお願いしました!）







## 認定看護師インタビュー!

### 感染管理認定看護師 濱田 友宣 看護師

菊南病院の医療安全管理室所属・濱田友宣看護師が、新たに「感染管理認定看護師」の資格を取得しました。当院で感染分野の認定看護師は2人目となります。

#### Q. 認定看護師とはどんな資格ですか?

日本看護協会が定める600時間以上の教育を修め、認定審査に合格すると取得できる資格です。現在、感染管理を含め21分野があります。

#### Q. 現在のお仕事の内容を教えてください

院内外で発生した問題や疑問の相談に乗り、改善策を導き出せるよう支援しています。また、病院を訪れるすべての人(患者や家族、職員など)に安心して過ごして頂けるよう、環境ラウンドやマニュアル整備、データ分析、行政との情報共有などを行っています。

#### Q. 感染対策で大事なことは?

感染制御の基本は、感染源を「持ち込まない」「持ち出さない」「広げない」ことです。感染は人の手を介して広がることが多く、病原微生物は目に見えないため、日頃からの手指衛生が大切であると考えます。

#### Q. 今後の抱負を教えてください

院内の感染対策の強化が急務ですが、将来的には地域に向けて感染予防に関する情報を発信し、菊南病院と地域の「交流の輪」を広げていけるよう尽力していきたいと思います。

## ハタチのお祝い

ハタチのお祝いに寄せて

■健康管理部 川俣 柚那さん

当法人で2025年に二十歳の節目を迎えた方へ、お祝いさせていただきました。今後ますますの飛躍をお祈り申し上げます。



#### Q. ハタチになり、何か心境の変化はありましたか?

実感は、あまりありませんが、社会に出て生活していく中で将来について考えることが増えたように感じます。学生時代は長く感じていた1日が、現在は仕事と育児であつという間に時間が過ぎ、自分の人生とは何なのかと考える時があります。まだ、明確な目標がない為これから探していこうと思います。

#### Q. 菊南病院で働いてみて、どうですか?

私は、全てのことが初心者という状態で入社しました。初めの頃は早く慣れなければいけないと焦る気持ちばかりでしたが、皆さんの優しく、丁寧なご指導のおかげで少しずつですが、できることが増えました。

また受付の業務をしている際に、受診者の方が話しかけて下さり、色々な話を聞かせてもらっています。今まで年配の方と接する機会が無かった為、新鮮で楽しい仕事だと感じています。

#### Q. どんなオトナになりたいですか? (将来の抱負など)

成人を迎え、これからは全ての責任や義務を背負っていかなければいけません。そのために、常に先のことを見据えて行動し、挑戦する自分らしさは忘れない大人でありたいと思います。また、将来は様々な経験を積みながら、基礎力を養い、育児と仕事の両立と資格の習得に挑戦したいです。



# ドクター古庄のサイクリング紀行

菊南病院 副院長  
古庄 伸行

## 60. 北里柴三郎の銅像を訪ねる

昨年7月に新紙幣が発行されて半年が過ぎ、千円札に北里柴三郎の顔を見ることが増えてきました。馴染みのできた柴三郎の、銅像が熊本市内には3体あることが分かり、先日、自転車に乗って廻ってきました。

感染症学のみならず衛生行政、医学教育など多方面で貢献し「日本近代医学の父」と呼ばれる柴三郎は明治4年、18才で古城医学学校(現・熊本大学医学部)にてオランダ人軍医マンスフェルトに師事し、医学の道を歩み始めました。熊本大学医学部では、柴三郎の生誕150周年を記念して2003(平成15)年3月、熊本大学の基礎医学研究所の玄関ホールに、若かりし頃の柴三郎の胸像が置かれ(写真の左上)、その横には直筆の書も掛けられて(写真の左下)、ここで奮闘する若い研究者を見守り、励ましています。また、すぐ近くの熊本大学病院の外來の玄関には新紙幣発行を記念して、恩師マンスフェルトの前で顕微鏡を覗く柴三郎のレリーフ像が2024年に置かれました(写真の右下)。それからもうひとつ、熊本県医師会館にも玄関ホールに柴三郎の座像が設置されています(写真の右上)。東京の日本医師会館では初代会長である柴三郎の銅像が昭和初期から置かれていましたが、戦時中、軍の「金

属類回収」の令により供出され、その後は銅像の元となった石膏像が長年置かれていました。柴三郎が新紙幣に使われることが決まった2020年にその石膏像を元に銅像が再び鑄造されることとなり、その際に熊本県医師会長がもう一体鑄造することを願い出て造られたものなのです。北里柴三郎の各年代の顔を立体像で、興味深く眺めてきました。



# 徒然の記

菊南病院  
城野 憲二

## 《その拾六》 生きていることが奇跡。だけど・・・の段。

詳しい事は分からないが、私は生まれた時、死にかけていた。昔の事である。兄は産婆さんに取り上げてもらったらしいが、私は何か問題があったのか、公的病院の産科で生まれた。生後1週間ほど保育器に入れられて病院にいたものの、産科の若い医者から、もう助からないと言われたらしい。今のように産科と新生児科の連携などなかった時代である。私の両親は相談して、それならば家で死なせてあげようと、私を自宅に連れて帰ったようだ。70年近く前の真冬の12月末のことである。冬は今よりずっと寒かったろう。

父は警察官だったので自宅といっても警察の官舎である。当時のそれは隙間風が吹き抜ける、時代劇に出てくる長屋のようなものである。庶民の家はそれが当たり前であった。両親は未だ20代前半であったし兄もいたので、生活は楽ではなかったはずだ。エアコンなど有るはずもなく、石油ストーブさえなかったらしい。

家に連れて帰った私を風呂に入れ、身体をマッサージし、産着を着せて暖かくしてやったところ、オッパイを飲むようになり、グングンと元気になったそうである。あの医者(最近まで産科病院を開業していたようだが)の言うことを両親が真に受けていたら、私の人生は2週間で終わっていた。

人はどう生まれるかを選ぶことはできない。と同時にどう死ぬかも思い通りにはならない。ただ、とっくの昔にあの世に行っていておかしくないこの命だ。この歳まで生かしてもらえたことに感謝しなければならない。

私は子供の頃から視力は良かった。いつも1.5か2.0であった。だからメガネなど掛けたことはついぞなかった。趣味はプラモデルを作ること、大人になってからもたまに作るがあった。50才頃に久しぶりに作ってみようと思い買ってきた。箱を開け設計図を出してみても愕然とした。設計図の文字が読めないのだ。プラモデルの設計図の文字はとても

小さいのだが、以前は何の問題もなく読んでいた。つまり老眼になっていたのだ。実はこの時初めて「老(おい)」を意識した。勿論、40才前後で頭髪が薄くなり始めた時にも年齢を意識はしたが、それは「老」ではなかった。

数年前、小学生になった孫と公園に行った。縄跳をして見せてくれるのだが、2段跳びが上手くできないらしい。私はスポーツは全般に苦手なのだが、2段跳びは得意だったので教えてあげることにした。で、やってみると1回も跳べない。確かに何十年ぶりではあったが、自分の息子たちが子供の頃にはやってみせていた。こんなはずはないと何度かやってみたが、結局1回もできなかった。想像以上に運動能力が落ちていることを思い知らされた。

ある時、その孫達と話していた時のこと。妻が私に、トンチンカンな返事をしているよ。と言った。言われてみると、その前から人の会話が聞き取りづらいことに気づいていた。老人性難聴である。補聴器を作り使ってみて驚いた。全く別世界なのだ。随分以前からかなり聴力が落ちていたらしい。

「老」は誰にでも訪れる。それが自分にやって来たということである。いずれあの世に行く順番も回って来る。件の両親も、たった1人の兄弟であった兄も、すでにあの世に旅だった。次は私の番である。とは言え、その日が来るまでは老眼鏡と補聴器のお世話になろう。ウォーキングも続けよう。助かる病気で死なないように、毎年人間ドックにも入ろう。

長寿の時代である。どう生きるかを考えることはとても大切なことだ。だが、今の時代、それ以上に、どう死ぬかを考えることの方が大切になっている、ように思う。

願わくば、趣味のフルートやサクスの演奏会で、演奏中に一言だけ「うっ」と言って、そのままあの世に行ければと思う。もっともこれでは周りにいる人達には大迷惑かな?!



